



名前

「

」

かくとだにえやはいぶきのさしも草ぐさ

さしも知らじなもゆる思おもひをイ

ふじわらのさねかたあそん
藤原実方朝臣

明あけぬれば暮くるものとは知しりながら

なほ恨おうらめしき朝あさぼらけかな

ふじわらのみちのぶあそん
藤原道信朝臣

嘆なげきつつひとり寝ぬる夜の明あくる間まは

いかに久ひさしきものとかは知しる

うだいしゅうみちつなのはは
右大将道綱母

忘わすれじの行末ゆくすえまではかたければ

今日きょうをかぎりの命いのちともがな

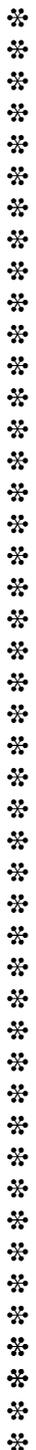
ぎどうさんしのはは
儀同三司母

滝たきの音おとは絶たえて久ひさしくなりぬれど

名なこそ流ながれてなほ聞おきこえけれ

さきのだいなごんきんどう
前大納言公任

ヒアリング古典 百人一首 百人一首⑥



名前

「

」

あらざらむこの世の外ン よ ほか おもいでの思ひ出に

今いまひとたびの逢おうふこともがな

和泉式部 いずみしきぶ

めぐり逢あひて見みしやそれともわかぬまに

雲くもがくれにし夜半よわ つきの月かな

紫式部 むらさきしきぶ

有馬山猪名ありまやまい なの笹原風吹ささはらかぜけは

いでそよ人ひとを忘れわすやはする

大弐三位 だいにのさんみ

やすらはで寝ねなましものをさ夜よふけて

かたぶくまでの月つきを見みしかな

赤染衛門 あかぞめ えもん

大江山おおえやまいく野のの道みちの遠とおければ

まだふみも見みず天あまの橋立はしだて

小式部内侍 こしきぶのないし